

高岡市民病院事業会計

高岡市民病院事業会計

1 業務状況

令和2年度の延患者数は265,161人で、前年度に比べ35,858人(△11.9%)減少している。
そのうち入院患者数は94,307人で、前年度に比べ14,071人(△13.0%)減少し、外来患者数は170,854人で、前年度に比べ21,787人(△11.3%)減少している。

また、病床利用率は64.4%で、前年度に比べ9.4ポイント低下している。

(1) 業務実績

区 分		単位	令和2年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
						増減C(A-B)	率C/B(%)
病床数		床	401	401	401	0	—
一般病床		床	333	333	333	0	—
精神病床		床	50	50	50	0	—
結核病床		床	12	12	12	0	—
感染症病床		床	6	6	6	0	—
診療日数	入院	日	365	366	365	△ 1	△ 0.3
	外来	日	243	240	244	3	1.3
延患者数		人	265,161	301,019	310,899	△ 35,858	△ 11.9
年間入院患者数		人	94,307	108,378	114,383	△ 14,071	△ 13.0
1日平均入院患者数		人	258.4	296.1	313.4	△ 37.7	△ 12.7
年間外来患者数		人	170,854	192,641	196,516	△ 21,787	△ 11.3
1日平均外来患者数		人	703.1	802.7	805.4	△ 99.6	△ 12.4
病床利用率		%	64.4	73.8	78.1	△ 9.4	
一般病床		%	67.6	80.5	83.9	△ 12.9	
精神病床		%	59.0	55.9	65.7	3.1	
結核病床		%	28.6	0.4	10.7	28.2	
感染症病床		%	4.9	0.4	0.0	4.5	
職員数		人	482	483	485	△ 1	△ 0.2
平均在院日数		日	13.3	13.1	13.4	0.2	1.5

- (注) 1 病床利用率 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
2 職員数(各年度末現在)には、会計年度任用職員は含まれていない。

(2) 科別入院患者数比較表

(単位:人・%)

科 名	入 院 患 者 数					1 日 平 均 患 者 数			
	令和2年度	令和元年度	平成30年度	前年度との比較		令和2年度	令和元年度	平成30年度	前年度との比較 D-E
	A	B		増減 C(A-B)	率C/B	D	E		
内科	27,515	30,803	31,337	△ 3,288	△ 10.7	75.4	84.2	85.9	△ 8.8
神経内科	4,290	4,769	4,742	△ 479	△ 10.0	11.8	13.0	13.0	△ 1.2
消化器内科	12,228	12,398	14,130	△ 170	△ 1.4	33.5	33.9	38.7	△ 0.4
精神神経科	10,781	10,229	11,993	552	5.4	29.5	27.9	32.9	1.6
小児科	839	1,494	1,893	△ 655	△ 43.8	2.3	4.1	5.2	△ 1.8
外科	9,556	11,285	9,909	△ 1,729	△ 15.3	26.2	30.8	27.1	△ 4.6
胸部・血管外科	1,950	3,053	2,940	△ 1,103	△ 36.1	5.3	8.3	8.1	△ 3.0
整形外科	10,366	13,895	14,045	△ 3,529	△ 25.4	28.4	38.0	38.5	△ 9.6
脳神経外科	4,601	6,913	7,045	△ 2,312	△ 33.4	12.6	18.9	19.3	△ 6.3
皮膚科	278	11	60	267	2,427.3	0.8	0.0	0.2	0.8
形成外科	683	456	945	227	49.8	1.9	1.2	2.6	0.7
泌尿器科	3,607	3,909	4,578	△ 302	△ 7.7	9.9	10.7	12.5	△ 0.8
産婦人科	3,964	4,500	5,937	△ 536	△ 11.9	10.9	12.3	16.3	△ 1.4
眼科	2,039	2,230	2,618	△ 191	△ 8.6	5.6	6.1	7.2	△ 0.5
耳鼻咽喉科	599	1,086	1,435	△ 487	△ 44.8	1.6	3.0	3.9	△ 1.4
放射線科	0	0	6	0	—	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	473	435	380	38	8.7	1.3	1.2	1.0	0.1
麻酔科	173	25	158	148	592.0	0.5	0.1	0.4	0.4
リウマチ科	365	887	232	△ 522	△ 58.9	1.0	2.4	0.6	△ 1.4
リハビリテーション科									
計	94,307 (365)	108,378 (366)	114,383 (365)	△ 14,071	△ 13.0	258.4	296.1	313.4	△ 37.7

(注) () 内は、各年度の診療日数である。

年間入院患者数は延 94,307 人で、前年度に比べ 14,071 人(△13.0%)減少している。

1 日平均患者数は 258.4 人で、前年度に比べ 37.7 人減少している。1 日平均患者数のうち前年度に比べ増加した科は精神神経科、皮膚科、形成外科等で、減少した科は整形外科、内科、脳神経外科等である。

(3) 科別外来患者数比較表

(単位：人・%)

科 名	外 来 患 者 数					1 日 平 均 患 者 数			
	令和2年度	令和元年度	平成30年度	前年度との比較		令和2年度	令和元年度	平成30年度	前年度との比較
	A	B		増減 C(A-B)	率C/B	D	E		
内科	32,531	33,851	34,840	△ 1,320	△ 3.9	133.9	141.0	142.8	△ 7.1
神経内科	4,958	5,493	5,661	△ 535	△ 9.7	20.4	22.9	23.2	△ 2.5
消化器内科	13,058	14,323	15,669	△ 1,265	△ 8.8	53.7	59.7	64.2	△ 6.0
精神神経科	14,335	15,351	15,601	△ 1,016	△ 6.6	59.0	64.0	63.9	△ 5.0
小児科	1,945	3,516	3,504	△ 1,571	△ 44.7	8.0	14.7	14.4	△ 6.7
外科	9,335	10,361	10,472	△ 1,026	△ 9.9	38.4	43.2	42.9	△ 4.8
胸部・血管外科	2,583	3,003	3,303	△ 420	△ 14.0	10.6	12.5	13.5	△ 1.9
整形外科	11,844	14,473	14,186	△ 2,629	△ 18.2	48.7	60.3	58.1	△ 11.6
脳神経外科	5,509	5,872	6,004	△ 363	△ 6.2	22.7	24.5	24.6	△ 1.8
皮膚科	5,379	6,057	6,515	△ 678	△ 11.2	22.1	25.2	26.7	△ 3.1
形成外科	3,619	3,990	4,550	△ 371	△ 9.3	14.9	16.6	18.6	△ 1.7
泌尿器科	9,706	10,243	9,487	△ 537	△ 5.2	39.9	42.7	38.9	△ 2.8
産婦人科	8,050	8,846	9,652	△ 796	△ 9.0	33.1	36.9	39.6	△ 3.8
眼科	8,815	10,053	10,482	△ 1,238	△ 12.3	36.3	41.9	43.0	△ 5.6
耳鼻咽喉科	3,101	3,900	3,890	△ 799	△ 20.5	12.8	16.3	15.9	△ 3.5
放射線科	4,446	5,072	5,029	△ 626	△ 12.3	18.3	21.1	20.6	△ 2.8
歯科口腔外科	5,795	6,476	5,859	△ 681	△ 10.5	23.8	27.0	24.0	△ 3.2
麻酔科	2,285	2,789	2,530	△ 504	△ 18.1	9.4	11.6	10.4	△ 2.2
リウマチ科	2,137	2,372	2,618	△ 235	△ 9.9	8.8	9.9	10.7	△ 1.1
リハビリテーション科	21,423	26,600	26,664	△ 5,177	△ 19.5	88.2	110.8	109.3	△ 22.6
計	170,854 (243)	192,641 (240)	196,516 (244)	△ 21,787	△ 11.3	703.1	802.7	805.4	△ 99.6

(注) () 内は、各年度の診療日数である。

年間外来患者数は延 170,854 人で、前年度に比べ 21,787 人(△11.3%)減少している。

1 日平均患者数は 703.1 人で、前年度に比べ 99.6 人減少しており、リハビリテーション科、整形外科、内科をはじめ全ての科で減少している。

(4) 科別入院診療収入比較表

(単位：診療収入：千円・%、患者1人1日当たり診療収入：円)

科 名	令和2年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較		患者1人1日当たり診療収入			
				増減 C(A-B)	率C/B	令和2年度 D	令和元年度 E	平成30年度	前年度との 比較 D-E
内科	1,435,901	1,537,421	1,569,094	△ 101,520	△ 6.6	52,186	49,911	50,072	2,275
神経内科	176,144	185,302	182,098	△ 9,158	△ 4.9	41,059	38,856	38,401	2,203
消化器内科	617,066	601,527	683,058	15,539	2.6	50,463	48,518	48,341	1,945
精神神経科	199,802	180,926	204,902	18,876	10.4	18,533	17,688	17,085	845
小児科	39,161	69,234	85,614	△ 30,073	△ 43.4	46,676	46,341	45,227	335
外科	627,550	736,339	656,099	△ 108,789	△ 14.8	65,671	65,249	66,212	422
胸部・血管外科	133,621	225,275	214,998	△ 91,654	△ 40.7	68,524	73,788	73,128	△ 5,264
整形外科	631,179	786,767	798,895	△ 155,588	△ 19.8	60,889	56,622	56,881	4,267
脳神経外科	250,716	316,990	322,830	△ 66,274	△ 20.9	54,492	45,854	45,824	8,638
皮膚科	10,377	438	2,009	9,939	2,269.2	37,328	39,794	33,490	△ 2,466
形成外科	32,474	18,153	32,641	14,321	78.9	47,545	39,809	34,541	7,736
泌尿器科	238,465	242,257	252,048	△ 3,792	△ 1.6	66,112	61,974	55,056	4,138
産婦人科	326,616	349,849	445,784	△ 23,233	△ 6.6	82,396	77,744	75,086	4,652
眼科	180,326	188,680	220,934	△ 8,354	△ 4.4	88,438	84,610	84,390	3,828
耳鼻咽喉科	31,140	56,945	75,447	△ 25,805	△ 45.3	51,987	52,436	52,576	△ 449
放射線科	0	0	591	0	—	0	0	98,471	0
歯科口腔外科	31,028	26,444	21,295	4,584	17.3	65,598	60,792	56,039	4,806
麻酔科	16,866	5,692	11,555	11,174	196.3	97,493	227,664	73,133	△ 130,171
リウマチ科	16,444	35,157	9,720	△ 18,713	△ 53.2	45,052	39,636	41,895	5,416
リハビリテーション科									
計	4,994,876	5,563,396	5,789,612	△ 568,520	△ 10.2	52,964	51,333	50,616	1,631

年間入院診療収入は4,994,876千円で、前年度に比べ568,520千円(△10.2%)減少している。

患者1人1日当たりの診療収入は52,964円で、前年度に比べ1,631円増加している。前年度に比べ増加した科は脳神経外科、形成外科、リウマチ科等で、減少した科は麻酔科、胸部・血管外科、皮膚科等である。

(5) 科別外来診療収入比較表

(単位：診療収入：千円・%、患者1人1日当たり診療収入：円)

科名	令和2年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較		患者1人1日当たり診療収入			
				増減 C(A-B)	率C/B	令和2年度 D	令和元年度 E	平成30年度	前年度との 比較 D-E
内科	513,665	552,243	625,453	△ 38,578	△ 7.0	15,790	16,314	17,952	△ 524
神経内科	28,052	33,234	33,727	△ 5,182	△ 15.6	5,658	6,050	5,958	△ 392
消化器内科	171,486	175,558	183,055	△ 4,072	△ 2.3	13,133	12,257	11,683	876
精神神経科	65,838	72,501	73,906	△ 6,663	△ 9.2	4,593	4,723	4,737	△ 130
小児科	15,043	26,171	30,780	△ 11,128	△ 42.5	7,734	7,443	8,784	291
外科	306,689	317,369	325,849	△ 10,680	△ 3.4	32,854	30,631	31,116	2,223
胸部・血管外科	43,201	48,427	36,733	△ 5,226	△ 10.8	16,725	16,126	11,121	599
整形外科	100,801	109,528	104,272	△ 8,727	△ 8.0	8,511	7,568	7,350	943
脳神経外科	41,713	46,029	49,990	△ 4,316	△ 9.4	7,572	7,839	8,326	△ 267
皮膚科	10,869	10,514	12,639	355	3.4	2,021	1,736	1,940	285
形成外科	12,998	15,376	18,664	△ 2,378	△ 15.5	3,591	3,854	4,102	△ 263
泌尿器科	182,887	157,506	148,239	25,381	16.1	18,843	15,377	15,625	3,466
産婦人科	78,489	85,193	81,807	△ 6,704	△ 7.9	9,750	9,631	8,476	119
眼科	140,303	144,789	150,991	△ 4,486	△ 3.1	15,916	14,403	14,405	1,513
耳鼻咽喉科	25,050	30,376	33,981	△ 5,326	△ 17.5	8,078	7,789	8,736	289
放射線科	108,486	85,036	91,223	23,450	27.6	24,401	16,766	18,139	7,635
歯科口腔外科	41,229	43,915	37,319	△ 2,686	△ 6.1	7,115	6,781	6,369	334
麻酔科	13,646	10,885	10,424	2,761	25.4	5,972	3,903	4,120	2,069
リウマチ科	45,096	52,448	62,546	△ 7,352	△ 14.0	21,102	22,111	23,891	△ 1,009
リハビリテーション科	62,416	71,404	70,113	△ 8,988	△ 12.6	2,913	2,684	2,630	229
計	2,007,957	2,088,502	2,181,711	△ 80,545	△ 3.9	11,752	10,841	11,102	911

年間外来診療収入は2,007,957千円で、前年度に比べ80,545千円(△3.9%)減少している。

患者1人1日当たりの診療収入は11,752円で、前年度に比べ911円増加している。前年度に比べ増加した科は、放射線科、泌尿器科、外科等で、減少した科はリウマチ科、内科、神経内科等である。

(6) 手術及び検査状況

(単位：件・%)

区 分	令和2年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
手術件数	3,628	4,075	4,085	△ 447	△ 11.0
検査件数	1,808,237	1,899,674	1,966,370	△ 91,437	△ 4.8
X線件数	57,618	62,950	65,352	△ 5,332	△ 8.5

(注) X線件数のうちエコー件数は除く。

(7) 処方箋の状況

(単位：枚・%)

区 分	令和2年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
処方箋枚数	80,065	88,315	91,173	△ 8,250	△ 9.3
うち院外処方箋枚数	76,207	82,856	84,939	△ 6,649	△ 8.0
院外処方箋率	95.2	93.8	93.2	1.4	

(8) 調剤の状況

(単位：件・%)

区 分	令和2年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
入院患者調剤件数	83,392	95,640	97,428	△ 12,248	△ 12.8
外来患者調剤件数	11,290	15,609	17,338	△ 4,319	△ 27.7
計	94,682	111,249	114,766	△ 16,567	△ 14.9

(9) 給食の状況

(単位：食・%)

区 分	令和2年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
一般食数	140,071	159,269	179,578	△ 19,198	△ 12.1
特別食数	86,462	96,399	92,916	△ 9,937	△ 10.3
計	226,533	255,668	272,494	△ 29,135	△ 11.4

(注) 特別食はエネルギーコントロール食、たんぱくコントロール食などである。

(10) 部門別100床当たり職員数

(単位：人・%)

区 分	令和2年度		令和元年度		平成30年度		前年度との比較		全国平均 (令和元年度)
	職員数	100床当たり 職員数 A	職員数	100床当たり 職員数 B	職員数	100床当たり 職員数	増減 C(A-B)	率 C/B	
医師	68	17.0	67	16.7	72	18.0	0.3	1.8	21.5
看護部門	328	81.8	330	82.3	334	83.3	△ 0.5	△ 0.6	90.6
薬剤部門	17	4.2	16	4.0	16	4.0	0.2	5.0	4.7
事務部門	25	6.2	27	6.7	24	6.0	△ 0.5	△ 7.5	13.6
給食部門	6	1.5	5	1.2	5	1.2	0.3	25.0	2.8
放射線部門	16	4.0	17	4.2	17	4.2	△ 0.2	△ 4.8	4.6
検査部門	20	5.0	19	4.7	20	5.0	0.3	6.4	5.9
その他職員	20	5.0	20	5.0	20	5.0	0.0	—	11.5
計	500	124.7	501	124.8	508	126.7	△ 0.1	△ 0.1	155.2

(注) 1 部門別100床当たり職員数 = $\frac{\text{部門別職員数}}{\text{病床数}} \times 100$

2 医師職員数には、フルタイム会計年度任用職員を含む。

3 事務部門の職員数は、診療情報管理士を含む。

100床当たりの職員数は124.7人で、前年度に比べ0.1人(△0.1%)減少している。

(11) 職員（医師・看護部門）１人１日当たり患者数・診療収入比較表

(単位：人・円・％)

区 分			令和２年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較		全国平均 (令和元年度)
						増減C(A-B)	率C/B	
患者数	医 師	入 院	3.6	4.2	4.0	△ 0.6	△ 14.3	3.5
		外 来	6.4	7.4	6.8	△ 1.0	△ 13.5	5.7
		計	10.0	11.6	10.8	△ 1.6	△ 13.8	9.2
	看護部門	入 院	0.6	0.8	0.8	△ 0.2	△ 25.0	0.8
		外 来	1.1	1.4	1.4	△ 0.3	△ 21.4	1.3
		計	1.7	2.2	2.2	△ 0.5	△ 22.7	2.1
診療収入		医 師	264,029	294,587	276,379	△ 30,558	△ 10.4	281,316
		看護部門	45,922	56,702	58,531	△ 10,780	△ 19.0	66,598

(注) 1 職員１人１日当たり患者数 = $\frac{\text{年間延入院（又は外来）患者数}}{\text{年間延医師（又は看護部門）数}}$

2 「年間延医師（又は看護部門）数」は、年度中において在籍した医師（フルタイム会計年度任用職員及びパートタイム会計年度任用職員を含む。）の延数〔又は看護部門（フルタイム会計年度任用職員及びパートタイム会計年度任用職員を含む。）の延数〕である。

3 職員１人１日当たり診療収入 = $\frac{\text{入院・外来診療収入}}{\text{年間延医師（又は看護部門）数}}$

職員１人１日当たりの患者数は、医師部門の入院及び外来の合計人数が10.0人で、前年度に比べ1.6人（△13.8％）減少し、看護部門の入院及び外来の合計人数は1.7人で、前年度に比べ0.5人（△22.7％）減少している。

職員１人１日当たりの診療収入は、医師部門が264,029円で、前年度に比べ30,558円（△10.4％）減少し、看護部門は45,922円で、前年度に比べ10,780円（△19.0％）減少している。

(12) 検査の状況

区 分		単位	令和２年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較		全国平均 (令和元年度)
						増減C(A-B)	率C/B(%)	
患者100人当たり検査件数		件	681.9	631.1	632.5	50.8	8.0	592.1
検査技師１人当たり検査件数		件	90,412	99,983	98,319	△ 9,571	△ 9.6	75,685
検査技師１人当たり検査収入		千円	26,154	29,088	28,927	△ 2,934	△ 10.1	31,381

(注) 1 患者100人当たり検査件数 = $\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年間延入院・外来患者数}} \times 100$

2 検査技師１人当たり検査収入 = $\frac{\text{入院・外来検査収入}}{\text{検査技師数}}$

患者100人当たりの検査件数は681.9件で、前年度に比べ50.8件(8.0％)増加している。

検査技師１人当たりの検査件数は90,412件で、前年度に比べ9,571件(△9.6％)、検査収入は26,154千円で、前年度に比べ2,934千円(△10.1％)減少している。

(13) 材料費

区 分		単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	前年度との比較		全国平均 (令和元年度)
			A	B		増減 C(A-B)	率 C/B(%)	
薬品費	薬品費	千円	919,205	991,266	1,073,923	△ 72,061	△ 7.3	
	経常費用に占める割合	%	10.3	11.2	11.9	△ 0.9		12.5
	医業収益に対する割合	%	12.7	12.5	13.0	0.2		14.2
	患者1人1日当たり薬品費	円	3,467	3,293	3,454	174	5.3	4,652
	薬品使用効率	投薬	%	74.5	79.9	△ 5.4		92.0
		注射	%	78.9	73.3	5.6		92.7
		計	%	78.4	74.4	4.0		92.6
診療材料費	診療材料費	千円	645,627	730,907	782,863	△ 85,280	△ 11.7	
	経常費用に占める割合	%	7.2	8.2	8.7	△ 1.0		10.7
	医業収益に対する割合	%	8.9	9.2	9.5	△ 0.3		12.2
給食材料費	給食材料費	千円	65,263	69,215	72,843	△ 3,952	△ 5.7	
	経常費用に占める割合	%	0.7	0.8	0.8	△ 0.1		0.4
	医業収益に対する割合	%	0.9	0.9	0.9	0.0		0.5
	患者1人1日当たり給食材料費	円	692	639	637	53	8.3	389
	患者1人1日当たり給食収入	円	1,651	1,748	1,659	△ 97	△ 5.5	1,532
計		千円	1,630,095	1,791,388	1,929,629	△ 161,293	△ 9.0	

(注) 1 薬品使用効率 = $\frac{\text{薬品収入}}{\text{薬品費}} \times 100$

2 診療材料費には、医療消耗備品を含む。

ア 薬品費

薬品費は919,205千円で、前年度に比べ72,061千円(△7.3%)減少している。

患者1人1日当たりの薬品費は3,467円で、前年度に比べ174円(5.3%)増加している。

また、経常費用に占める割合は10.3%で、前年度に比べ0.9ポイント低下し、医業収益に対する割合は12.7%で、前年度に比べ0.2ポイント上昇している。

イ 診療材料費

診療材料費は645,627千円で、前年度に比べ85,280千円(△11.7%)減少している。

また、経常費用に占める割合は7.2%で、前年度に比べ1.0ポイント、医業収益に対する割合は8.9%で、前年度に比べ0.3ポイントそれぞれ低下している。

ウ 給食材料費

給食材料費は65,263千円で、前年度に比べ3,952千円(△5.7%)減少している。

入院患者1人1日当たりの給食材料費は692円で、前年度に比べ53円(8.3%)増加し、給食収入は1,651円で、前年度に比べ97円(△5.5%)減少している。

また、経常費用に占める割合は0.7%で、前年度に比べ0.1ポイント低下し、医業収益に対する割合は0.9%で、前年度と同率である。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出（消費税込み）

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

(単位:千円・%)

区 分		予算額 A	決算額 B	翌年度 繰越額 C	予算額に対する 増減 B+C-A 又は不用額 A-B-C	執行率 B/A	備 考	
収 入	1 医業収益	7,414,701	7,274,656		△ 140,045	98.1	仮受消費税	13,658
	2 医業外収益	1,984,968	2,307,224		322,256	116.2	仮受消費税	2,185
	3 特別利益	186,161	183,022		△ 3,139	98.3		
	計	9,585,830	9,764,902		179,072	101.9	仮受消費税	15,843
支 出	1 医業費用	8,892,901	8,648,961	0	243,940	97.3	仮払消費税	211,736
	2 医業外費用	336,208	305,951	0	30,257	91.0		
	3 特別損失	186,301	183,022	0	3,279	98.2	仮払消費税	9
	4 予備費	5,901	0	0	5,901	—		
	計	9,421,311	9,137,934	0	283,377	97.0	仮払消費税	211,745
収支差引額		164,519	626,968					

ア 収益的収入

予算額 9,585,830 千円に対し、決算額は 9,764,902 千円(仮受消費税 15,843 千円を含む。)で、執行率 101.9%、179,072 千円の収入増である。

これは主に、医業収益が減少したものの、医業外収益が増加したことによるものである。

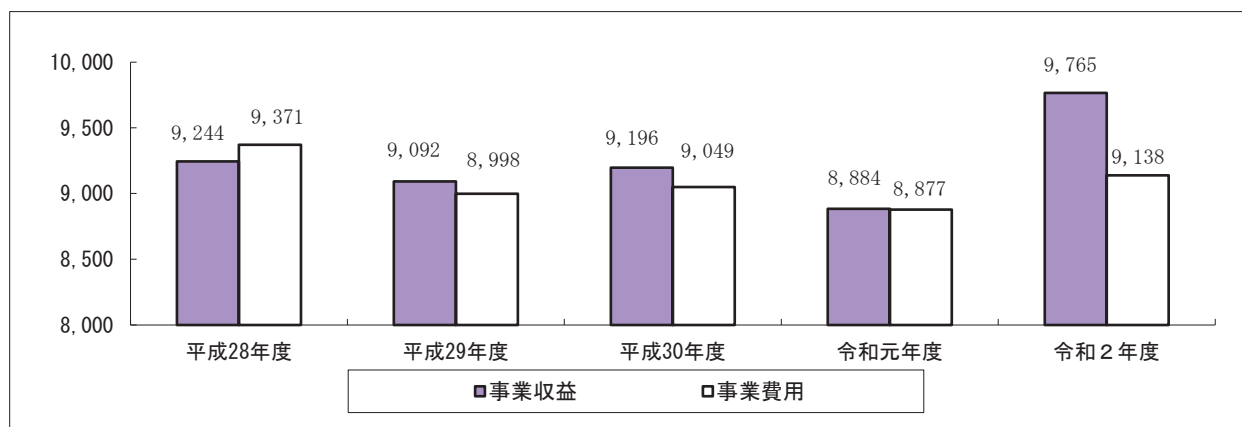
イ 収益的支出

予算額 9,421,311 千円に対し、決算額は 9,137,934 千円(仮払消費税 211,745 千円を含む。)で、執行率 97.0%、283,377 千円の不用額が生じている。

これは主に、医業費用に不用額が生じたことによるものである。

収益的収入及び支出決算額の推移

(単位：百万円)



(2) 資本的収入及び支出(消費税込み)

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分		予算額 A	決算額 B	翌年度 繰越額 C	予算額に対する 増減 B+C-A 又は不用額 A-B-C	執行率 B/A	備 考
収 入	1 企業債	282,400	232,500		△ 49,900	82.3	翌年度繰越額に 係る財源充当額 49,936
	2 出資金	236,626	236,626		0	100.0	
	3 固定資産売却収入	1,050	169		△ 881	16.1	
	4 補助金	150,109	143,807		△ 6,302	95.8	
	計	670,185	613,102		△ 57,083	91.5	
支 出	1 建設改良費	632,746	527,073	64,676	40,997	83.3	仮払消費税 47,916
	2 企業債償還金	1,091,842	1,091,842	0	0	100.0	
	3 投資及び出資金	1,050	893	0	157	85.0	
	計	1,725,638	1,619,808	64,676	41,154	93.9	仮払消費税 47,916
収支差引額		△ 1,055,453	△ 1,056,642	※翌年度繰越財源充当額を除く資本的収入計563,166千円			

ア 資本的収入

予算額 670,185 千円に対し、決算額は 613,102 千円で、執行率 91.5%、57,083 千円の収入減である。

これは主に、企業債が減少したことによるものである。

イ 資本的支出

予算額 1,725,638 千円に対し、決算額は 1,619,808 千円（仮払消費税 47,916 千円を含む。）で、執行率 93.9%、翌年度繰越額 64,676 千円を差し引くと 41,154 千円の不用額が生じている。

これは主に、建設改良費に不用額が生じたことによるものである。

ウ 補てん財源

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 49,936 千円を除く。）が資本的支出額に不足する額 1,056,642 千円は、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金 1,055,704 千円並びに当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 938 千円で補てんされている。

(3) その他の事項

ア 企業債

起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算の定めに従って行われていた。

イ 一時借入金

一時借入金の限度額は1,000,000千円であるが、借入額はその範囲内であった。

ウ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

この経費は職員給与費及び交際費であり、他の経費との間における流用はなかった。

エ 他会計からの補助金

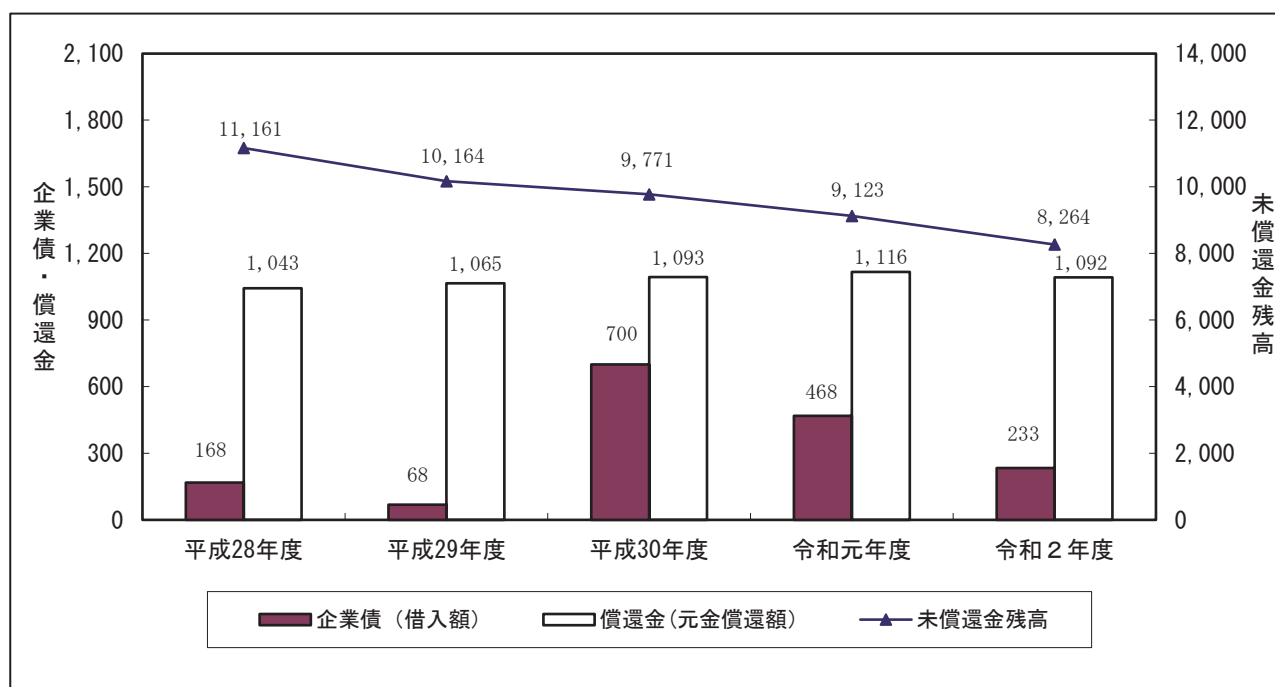
一般会計からの補助金は、予算の範囲内であった。

オ たな卸資産の購入状況

予算に定められたたな卸資産の購入限度額は1,199,824千円で、購入額はその範囲内であった。

企業債（借入額）、償還金（元金償還額）及び未償還金残高の推移

（単位：百万円）



3 経営状況

経営状況は、下表のとおりである。

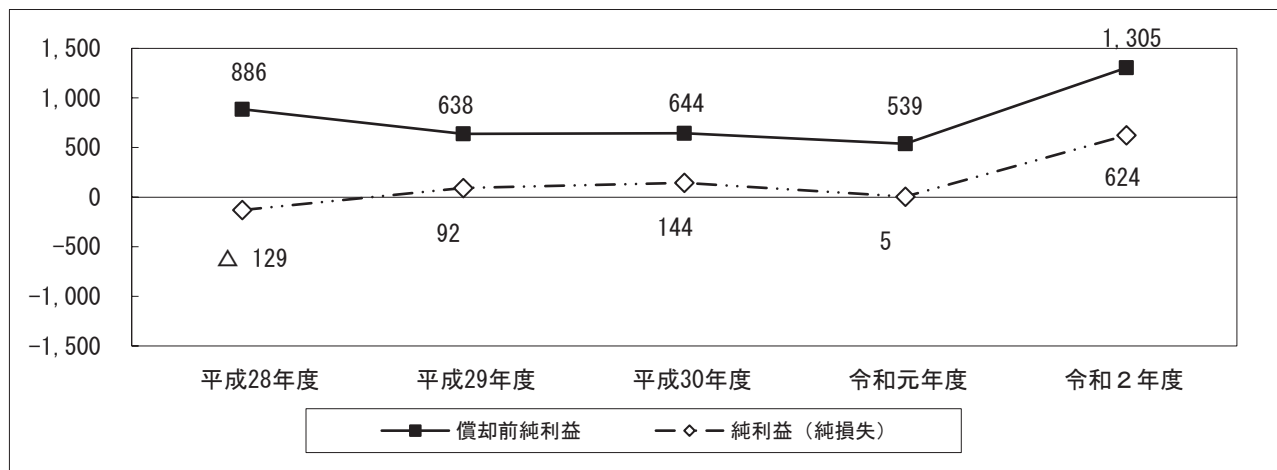
損益比較表

(単位:千円・%)

区 分		令和2年度		令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
収 益	1 医業収益 (ア)	7,260,998	74.5	7,944,356	8,261,182	△ 683,358	△ 8.6
	2 医業外収益 (イ)	2,305,039	23.6	922,648	919,649	1,382,391	149.8
	3 特別利益 (ウ)	183,022	1.9	0	0	183,022	皆増
	計	9,749,059	100.0	8,867,004	9,180,831	882,055	9.9
費 用	1 医業費用 (エ)	8,437,225	92.5	8,348,114	8,510,989	89,111	1.1
	2 医業外費用 (オ)	504,832	5.5	512,869	526,151	△ 8,037	△ 1.6
	3 特別損失 (カ)	183,013	2.0	586	0	182,427	31,130.9
	計	9,125,070	100.0	8,861,569	9,037,140	263,501	3.0
医業収支 (ア) - (エ) a		△ 1,176,227		△ 403,758	△ 249,807	△ 772,469	△ 191.3
医業外収支 (イ) - (オ) b		1,800,207		409,779	393,498	1,390,428	339.3
経常収支 (a+b) c		623,980		6,021	143,691	617,959	10,263.4
特別収支 (ウ) - (カ) d		9		△ 586	0	595	101.5
当年度純利益(△損失) c + d		623,989		5,435	143,691	618,554	11,380.9

償却前純利益と純利益(純損失)の推移

(単位:百万円)



収益 9,749,059 千円に対し、費用は 9,125,070 千円で、623,989 千円の当年度純利益が生じている。

前年度に比べ 618,554 千円 (11,380.9%) の増益である。

(1) 収益の部

収益の内訳は、下表のとおりである。

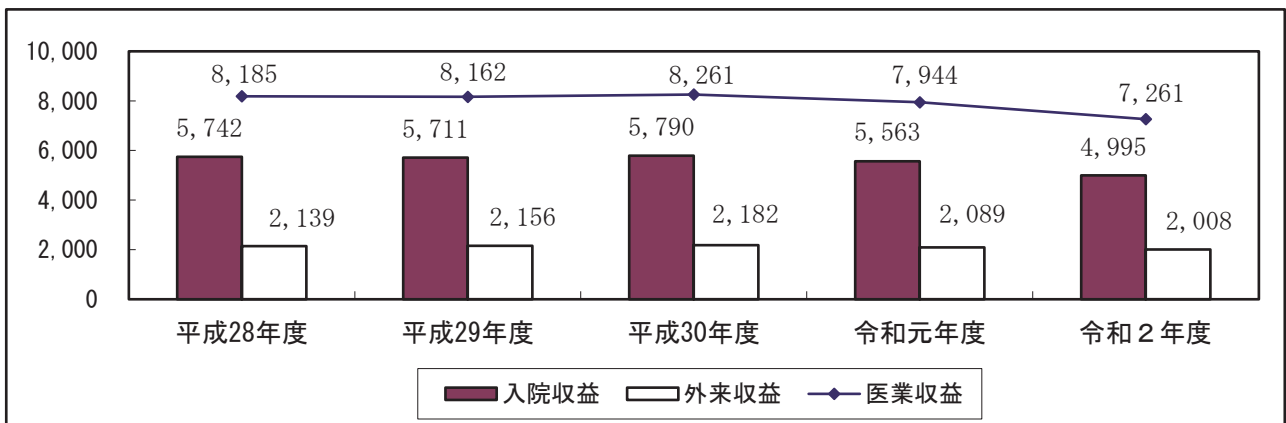
収益内訳表

(単位:千円・%)

区 分		令和2年度		令和元年度	平成30年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
収	1 医業収益	7,260,998	74.5	7,944,356	8,261,182	△ 683,358	△ 8.6
	(1)入院収益	4,994,876	51.2	5,563,396	5,789,612	△ 568,520	△ 10.2
	(2)外来収益	2,007,957	20.6	2,088,502	2,181,711	△ 80,545	△ 3.9
	(3)その他医業収益	258,165	2.7	292,458	289,859	△ 34,293	△ 11.7
益	2 医業外収益	2,305,039	23.6	922,648	919,649	1,382,391	149.8
	(1)受取利息及び配当金	0	0.0	0	0	0	—
	(2)他会計補助金	2,219,019	22.8	881,851	873,153	1,337,168	151.6
	(3)長期前受金戻入	14,739	0.1	14,850	15,282	△ 111	△ 0.7
	(4)その他医業外収益	71,281	0.7	25,947	31,214	45,334	174.7
	3 特別利益	183,022	1.9	0	0	183,022	皆増
	(1)その他特別利益	183,022	1.9	0	0	183,022	皆増
計		9,749,059	100.0	8,867,004	9,180,831	882,055	9.9

医業収益の推移

(単位:百万円)



ア 医業収益

医業収益は7,260,998千円で、前年度に比べ683,358千円(△8.6%)減少している。
これは主に、入院収益及び外来収益が減少したことによるものである。

イ 医業外収益

医業外収益は2,305,039千円で、前年度に比べ1,382,391千円(149.8%)増加している。
これは主に、新型コロナウイルス感染症患者受入病床確保に係る補助金等を計上したことによるものである。

ウ 特別利益

特別利益は183,022千円で、前年度に比べ皆増している。
これは、新型コロナウイルス感染症患者に対応する医療従事者への慰労金、激励金等を収納したことによるものである。

(2) 費用の部

費用の内訳は、下表のとおりである。

費用内訳表

(単位:千円・%)

区 分		令和2年度		令和元年度	平成30年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比	B		増減C(A-B)	率C/B
費用	1 医業費用	8,437,225	92.5	8,348,114	8,510,989	89,111	1.1
	(1) 給与費	4,619,673	50.6	4,687,726	4,714,216	△ 68,053	△ 1.5
	(2) 材料費	1,630,095	17.9	1,791,388	1,929,629	△ 161,293	△ 9.0
	薬品費	919,205	10.1	991,266	1,073,923	△ 72,061	△ 7.3
	診療材料費	640,873	7.0	726,790	778,720	△ 85,917	△ 11.8
	給食材料費	65,263	0.7	69,215	72,843	△ 3,952	△ 5.7
	医療消耗備品	4,754	0.1	4,117	4,143	637	15.5
	(3) 経費	1,399,730	15.3	1,309,718	1,294,608	90,012	6.9
	(4) 減価償却費	680,667	7.5	533,121	500,752	147,546	27.7
	(5) その他	107,060	1.2	26,161	71,784	80,899	309.2
	2 医業外費用	504,832	5.5	512,869	526,151	△ 8,037	△ 1.6
	(1) 支払利息	158,046	1.7	175,451	191,667	△ 17,405	△ 9.9
	(2) 長期前払消費税償却	26,728	0.3	26,728	26,728	0	—
	(3) その他医業外費用	320,058	3.5	310,690	307,756	9,368	3.0
	3 特別損失	183,013	2.0	586	0	182,427	31,130.9
	(1) その他特別損失	183,013	2.0	586	0	182,427	31,130.9
計		9,125,070	100.0	8,861,569	9,037,140	263,501	3.0

ア 医業費用

医業費用は8,437,225千円で、前年度に比べ89,111千円(1.1%)増加している。

これは主に、材料費が減少したものの、減価償却費及び経費が増加したことによるものである。

イ 医業外費用

医業外費用は504,832千円で、前年度に比べ8,037千円(△1.6%)減少している。

これは主に、支払利息が減少したことによるものである。

ウ 特別損失

特別損失は183,013千円で、前年度に比べ182,427千円(31,130.9%)増加している。

これは、新型コロナウイルス感染症患者に対応する医療従事者への慰労金、激励金等を支出したことによるものである。

4 財政状況

資産、負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

主要勘定貸借比較表

(単位：千円・%)

区 分			令和2年度		令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
借 方	資 産	1 固定資産	8,710,609	76.0	9,032,585	9,119,918	△ 321,976	△ 3.6
		2 流動資産	2,743,949	24.0	2,029,839	2,587,240	714,110	35.2
	資産合計		11,454,558	100.0	11,062,424	11,707,158	392,134	3.5
貸 方	負 債	1 固定負債	7,228,880	63.1	8,031,410	8,654,952	△ 802,530	△ 10.0
		2 流動負債	2,400,299	21.0	2,174,575	2,291,449	225,724	10.4
		3 繰延収益	542,224	4.7	295,446	310,296	246,778	83.5
		負債合計	10,171,403	88.8	10,501,431	11,256,697	△ 330,028	△ 3.1
	資 本	4 資本金	11,818,650	103.2	11,720,477	11,615,380	98,173	0.8
		5 剰余金	△ 10,535,495	△ 92.0	△ 11,159,484	△ 11,164,919	623,989	5.6
		資本合計	1,283,155	11.2	560,993	450,461	722,162	128.7
	負債・資本合計		11,454,558	100.0	11,062,424	11,707,158	392,134	3.5

(1) 資産の部

資産の内訳は、下表のとおりである。

資産内訳表

(単位：千円・%)

区 分			令和2年度		令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
借 方	資 産	1 固定資産	8,710,609	76.0	9,032,585	9,119,918	△ 321,976	△ 3.6
		(1)有形固定資産	8,706,226	76.0	9,002,198	9,061,875	△ 295,972	△ 3.3
		土地	1,114,298	9.7	1,114,298	1,117,442	0	—
		建物	6,094,101	53.2	6,311,216	6,464,627	△ 217,115	△ 3.4
		構築物	24,218	0.2	24,218	24,218	0	—
		器械及び備品	1,472,012	12.9	1,551,909	1,455,031	△ 79,897	△ 5.1
		車両	557	0.0	557	557	0	—
		建設仮勘定	1,040	0.0	0	0	1,040	皆増
		(2)投資	4,383	0.0	30,387	58,043	△ 26,004	△ 85.6
		長期前払消費税	0	0.0	26,728	53,457	△ 26,728	皆減
		その他投資	4,383	0.0	3,659	4,586	724	19.8
		2 流動資産	2,743,949	24.0	2,029,839	2,587,240	714,110	35.2
		(1)現金及び預金	1,411,043	12.3	810,991	1,263,763	600,052	74.0
		(2)未収金	1,308,315	11.4	1,186,038	1,281,761	122,277	10.3
		(3)貸倒引当金	△ 5,085	△ 0.0	△ 4,666	△ 3,968	△ 419	△ 9.0
		(4)貯蔵品	29,484	0.3	37,321	45,522	△ 7,837	△ 21.0
		(5)前払金	192	0.0	155	162	37	23.9
	資 産 合 計		11,454,558	100.0	11,062,424	11,707,158	392,134	3.5

ア 固定資産

固定資産は8,710,609千円で、前年度に比べ321,976千円(△3.6%)減少している。
これは主に、建物が減少したことによるものである。

イ 流動資産

流動資産は2,743,949千円で、前年度に比べ714,110千円(35.2%)増加している。
これは主に、現金及び預金が増加したことによるものである。

なお、医業未収金のうち、クレジットカード分は14,414千円で、前年度に比べ1,773千円(14.0%)増加している。

また、貯蔵品の状況について、たな卸検査を実施したところ、適正に管理されていた。

有形固定資産明細書

(単位：千円)

資産の種類	年度当初 現在高	当年度 増加額	当年度 減少額	年度末 現在高	減価償却累計額			年度末 償却未済高
					当年度 増加額	当年度 減少額	累計	
土地	1,114,298	0	0	1,114,298	0	0	0	1,114,298
建物	17,868,842	46,144	0	17,914,986	263,259	0	11,820,885	6,094,101
構築物	484,361	0	0	484,361	0	0	460,143	24,218
器械及び備品	6,901,620	432,065	1,719,967	5,613,718	417,408	1,625,413	4,141,706	1,472,012
車両	11,138	0	0	11,138	0	0	10,581	557
建設仮勘定	0	1,040	0	1,040	0	0	0	1,040
合 計	26,380,259	479,249	1,719,967	25,139,541	680,667	1,625,413	16,433,315	8,706,226

未収金の状況

(単位：千円)

区 分	令和2年度末現在高			令和元年度末現在高 B	増減 A-B
	過年度分	令和2年度分	計 A		
医業未収金	47,509 (0)	994,102 (14,414)	1,041,611 (14,414)	1,158,215 (12,641)	△ 116,604 (1,773)
医業外未収金	0	266,704	266,704	27,823	238,881
合 計	47,509	1,260,806	1,308,315	1,186,038	122,277

(注) 1 令和2年度分医業未収金のうち、保険者負担分は2月調定分、3月調定分を含む(調定から2か月後に入金。)

2 () 内は、クレジットカード分

(2) 負債及び資本の部

負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

負債・資本内訳表

(単位：千円・%)

区 分			令和2年度		令和元年度	平成30年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比	B		増減C(A-B)	率C/B
貸 方	負 債	1 固定負債	7,228,880	63.1	8,031,410	8,654,952	△ 802,530	△ 10.0
		(1)企業債	7,228,880	63.1	8,031,410	8,654,952	△ 802,530	△ 10.0
		(2)引当金	0	0.0	0	0	0	—
		2 流動負債	2,400,299	21.0	2,174,575	2,291,449	225,724	10.4
		(1)企業債	1,035,030	9.0	1,091,842	1,116,476	△ 56,812	△ 5.2
		(2)未払金	1,035,089	9.1	781,825	878,488	253,264	32.4
		(3)引当金	300,680	2.6	270,847	265,073	29,833	11.0
		(4)預り金	29,500	0.3	30,061	31,412	△ 561	△ 1.9
		3 繰延収益	542,224	4.7	295,446	310,296	246,778	83.5
		(1)長期前受金	1,058,396	9.2	796,878	796,878	261,518	32.8
		(2)長期前受金収益化累計額	△ 516,172	△ 4.5	△ 501,432	△ 486,582	△ 14,740	△ 2.9
		負 債 合 計	10,171,403	88.8	10,501,431	11,256,697	△ 330,028	△ 3.1
	資 本	4 資本金	11,818,650	103.2	11,720,477	11,615,380	98,173	0.8
		(1)自己資本金	11,818,650	103.2	11,720,477	11,615,380	98,173	0.8
		5 剰余金	△ 10,535,495	△ 92.0	△ 11,159,484	△ 11,164,919	623,989	5.6
		(1)欠損金	△ 10,535,495	△ 92.0	△ 11,159,484	△ 11,164,919	623,989	5.6
		当年度未処理欠損金	△ 10,535,495	△ 92.0	△ 11,159,484	△ 11,164,919	623,989	5.6
		資 本 合 計	1,283,155	11.2	560,993	450,461	722,162	128.7
	負 債 ・ 資 本 合 計		11,454,558	100.0	11,062,424	11,707,158	392,134	3.5

ア 固定負債

固定負債は7,228,880千円で、前年度に比べ802,530千円（△10.0%）減少している。
これは、企業債が減少したことによるものである。

イ 流動負債

流動負債は2,400,299千円で、前年度に比べ225,724千円（10.4%）増加している。
これは主に、未払金が増加したことによるものである。

ウ 繰延収益

繰延収益は542,224千円で、前年度に比べ246,778千円（83.5%）増加している。

エ 資本金

資本金は11,818,650千円で、前年度に比べ98,173千円（0.8%）増加している。

オ 剰余金

剰余金は△10,535,495千円で、前年度に比べ623,989千円（5.6%）増加している。
これは、当年度未処理欠損金が減少したことによるものである。

5 他会計補助金等の状況

一般会計からの補助金等については、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分			令和2年度 A	令和元年度 B	平成30年度	前年度との比較	
						増減C(A-B)	率C/B
収益的収入	補助金	救急医療	68,537	68,537	68,537	0	－
		企業債償還利子	104,496	116,039	126,682	△ 11,543	△ 9.9
		結核病床運営費	39,744	38,274	38,553	1,470	3.8
		精神病床運営費	184,447	201,219	180,705	△ 16,772	△ 8.3
		高度医療	409,351	413,623	301,282	△ 4,272	△ 1.0
		感染症病床運営費	31,882	31,882	30,802	0	－
		医師等研究研修費	5,959	13,815	14,712	△ 7,856	△ 56.9
		共済費追加費用	18,522	18,727	21,987	△ 205	△ 1.1
		基礎年金拠出金公的負担経費	0	0	109,309	0	－
		児童手当	20,630	18,165	20,485	2,465	13.6
		認知症疾患医療センター運営費	6,859	4,000	4,000	2,859	71.5
		病院群輪番制運営費	13,050	14,328	13,987	△ 1,278	△ 8.9
		新型コロナウイルス感染症対策事業	25,358	0	0	25,358	皆増
		計	928,835	938,609	931,041	△ 9,774	△ 1.0
資本的収入	出資金	企業債償還元金	95,673	102,596	195,349	△ 6,923	△ 6.7
		医療機器購入費	80,323	2,500	2,500	77,823	3,112.9
		施設改良費	60,630	0	0	60,630	皆増
		計	236,626	105,096	197,849	131,530	125.2
合 計			1,165,461	1,043,705	1,128,890	121,756	11.7

他会計補助金等は1,165,461千円で、前年度に比べ121,756千円(11.7%)増加している。

このうち収益的収入は928,835千円で、前年度に比べ9,774千円(△1.0%)減少し、資本的収入は236,626千円で、前年度に比べ131,530千円(125.2%)増加している。

6 キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

区 分	令和2年度 A	令和元年度 B	増減 A-B
1 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	623,989,263	5,435,451	618,553,812
減価償却費	680,666,876	533,120,903	147,545,973
引当金の増加額(△減少)	30,252,000	6,472,000	23,780,000
長期前受金戻入額	△ 14,739,362	△ 14,850,439	111,077
固定資産除却損・売却益	94,462,413	3,403,075	91,059,338
受取利息収入(△)	0	0	0
支払利息	158,045,933	175,451,325	△ 17,405,392
未収金の増加(△)・減少額	13,746,262	98,281,572	△ 84,535,310
未払金の増加・減少(△)額	△ 3,576,600	△ 21,705,086	18,128,486
たな卸資産の増加(△)・減少額	7,837,243	8,201,174	△ 363,931
長期前払消費税	26,728,463	26,728,463	0
その他の流動資産の増加(△)・減少額	△ 37,370	7,112	△ 44,482
その他の流動負債の増加・減少(△)額	△ 560,711	△ 1,351,522	790,811
小 計	1,616,814,410	819,194,028	797,620,382
利息受取額	0	0	0
利息支払額	△ 158,045,933	△ 178,235,775	20,189,842
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,458,768,477	640,958,253	817,810,224
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
固定資産取得・建設改良実施額	△ 479,156,901	△ 479,405,435	248,534
固定資産取得・建設改良実施に係る補助金等収入	137,682,000	0	137,682,000
固定資産売却収入	0	2,558,400	△ 2,558,400
一般会計からの繰入金	222,008,120	105,096,000	116,912,120
投資	△ 724,300	928,000	△ 1,652,300
投資活動に伴う前払金等の債権の増加(△)・減少額	△ 136,023,600	△ 2,558,400	△ 133,465,200
投資活動に伴う未払金等の債務の増加・減少(△)額	256,840,624	83,007,402	173,833,222
投資活動によるキャッシュ・フロー	625,943	△ 290,374,033	290,999,976
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
一時借入れによる収入	400,000,000	0	400,000,000
一時借入れの返済による支出	△ 400,000,000	0	△ 400,000,000
建設改良等に係る企業債償還による支出	△ 1,091,841,929	△ 1,116,476,004	24,634,075
建設改良等に係る企業債による収入	232,500,000	468,300,000	△ 235,800,000
財務活動に伴う前払金等の債権の増加(△)・減少額	0	0	0
財務活動に伴う未払金等の債務の増加・減少(△)額	0	△ 155,180,185	155,180,185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 859,341,929	△ 803,356,189	△ 55,985,740
4 資金増加額	600,052,491	△ 452,771,969	1,052,824,460
5 資金期首残高	810,990,549	1,263,762,518	△ 452,771,969
6 資金期末残高	1,411,043,040	810,990,549	600,052,491

7 経営分析

分 析 項 目			令和 2年度	令和 元年度	平成 30年度	全国平均 (令和元年度)	算 式
構 成 比 率	固定資産 構成比率	％	76.0	81.7	77.9	75.1	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延資産}} \times 100$
		総資産の固定化の度合いを表すもので、比率の低い方が望ましい。					
	固定負債 構成比率	％	63.1	72.6	73.9	54.9	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{負債}・\text{資本合計}} \times 100$
		固定負債と総資本との割合を表すもので、比率の低い方が望ましい。					
	自己資本 構成比率	％	15.9	7.7	6.5	30.9	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{負債}・\text{資本合計}} \times 100$
		総資本のうち自己資本の占める割合を示したもので、比率の高い方が望ましい。					
財 務 比 率	固定比率	％	—	—	—	243.1	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}} \times 100$
		固定資産と自己資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100%以下であることが望ましい。					
	固定資産対 長期資本比率	％	96.2	101.6	96.9	87.5	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{固定負債}+\text{繰延収益}} \times 100$
		固定資産と長期資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100%以下であることが望ましい。					
	流動比率	％	114.3	93.3	112.9	175.6	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$
		企業の支払能力を見るもので、この比率が大きいくほど支払能力が高いとされている。					
回 転 率	自己資本 回転率	回 転	—	—	—	1.9	$\left(\frac{\text{医 業 収 益}}{\frac{\text{期首自己資本}+\text{期末自己資本}}{2}} \right)$
		自己資本の働きを観察したもので、数値が大きいくほど資本が効率的に使われていることを示す。					
	流動資産 回転率	回 転	3.0	3.4	3.1	2.4	$\left(\frac{\text{医 業 収 益}}{\frac{\text{期首流動資産}+\text{期末流動資産}}{2}} \right)$
		流動資産の使用利用度を表すもので、数値が高いほど運用形態が良好なことを示す。					
	未収金回転率	回 転	5.8	6.4	6.2	5.9	$\left(\frac{\text{医 業 収 益}}{\frac{\text{期首未収金}+\text{期末未収金}}{2}} \right)$
		未収金の回収度を測定するもので、数値が高ければ未収金の回収速度が良好なことを示す。					
収 益 率	総収支比率	％	106.8	100.1	101.6	97.7	$\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$
		総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであり、比率の高い方が望ましい。					
	医業収支比率	％	86.0	95.1	97.0	91.2	$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$
		医業収益と医業費用との割合で営業活動の能率を表すものであり、この比率が高いほど経営状態が良好なことを示す。					
	総資本利益率	％	5.5	0.1	1.2	0.4	$\left(\frac{\text{当年度経常利益（損失）}}{\frac{\text{期首総資本}+\text{期末総資本}}{2}} \right) \times 100$
		経常利益と総資本との割合で、企業全体の収益性を表すものであり、比率の高い方が望ましい。					

分 析 項 目			令和 2年度	令和 元年度	平成 30 年度	全国平均 (令和元年度)	算 式	
そ の 他	医業収益に対する 職員給与費の割合		%	60.0	53.2	52.8	54.0	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$
			医業収益に対する職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。					
	医業費用に対する 職員給与費の割合		%	51.6	50.6	51.2	47.3	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業費用}} \times 100$
			医業費用に占める職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。					
	病床利用率	一般病床 結核病床 精神病床 感染症病床	%	64.4	73.8	78.1	75.4	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
				67.6	80.5	83.9	76.8	
				28.6	0.4	10.7	6.3	
				59.0	55.9	65.7	62.4	
				4.9	0.4	—	2.7	
		ベッドがどれだけ利用されたかを示すものであり、比率が高ければ利用効率が良好なことを示す。						
	1 日平均 患者数	入 院	人	258.4	296.1	313.4	336.0	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{\text{入院診療日数}}$
		外 来		703.1	802.7	805.4	828.0	$\frac{\text{年間延外来患者数}}{\text{外来診療日数}}$
		1年間を通じての1日平均患者数であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。						
	患者1人1日当たり診療収入	入 院 外 来	円	26,410	25,420	25,640	30,849	$\frac{\text{入院・外来収益}}{\text{年間延入院・外来患者数}}$
				52,964	51,333	50,616	55,798	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間延入院患者数}}$
				11,752	10,841	11,102	15,620	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間延外来患者数}}$
		患者1人1日当たりの平均の診療収入であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。						
	薬品使用効率	投薬薬品	%	74.5	79.9	76.3	92.0	$\frac{\text{薬品収入(投薬分)}}{\text{投薬用薬品費}} \times 100$
		注射薬品		78.9	73.3	73.9	92.7	$\frac{\text{薬品収入(注射分)}}{\text{注射用薬品費}} \times 100$
		薬品費に対する薬品収入の割合を示すものであり、比率の100%を超える部分が利益の大きさを示しており、この比率が高ければ収益面で良好なことを示す。						

- (注) 1 各比率の算出方法及び計算の際に用いた基礎数値は、総務省自治財政局編「令和元年度地方公営企業年鑑」の例による。
2 全国平均は、総務省自治財政局編「令和元年度地方公営企業年鑑」の数値である。
構成比率から収益率までの項目は、経営主体が市である公立病院の数値である。また、その他の項目は、400 以上 500 未満の
ベッド数を所有する公立病院の数値である。
3 自己資本＝資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益
4 総 資 本＝負債・資本合計